

DXセンター【R4企業展示ブース実施状況 (R3受賞技術)】

◎中部技術事務所では、令和4年6月から中部インフラDXセンターを一般の方にも向けで常時オープンしてきました。新たな取り組みとして、『R3中部DX大賞』等を受賞した各企業が取り組んでいるDX技術を展示するスペースを設けました。



(株)奥村組展示ブース
令和5年2月7日～17日まで

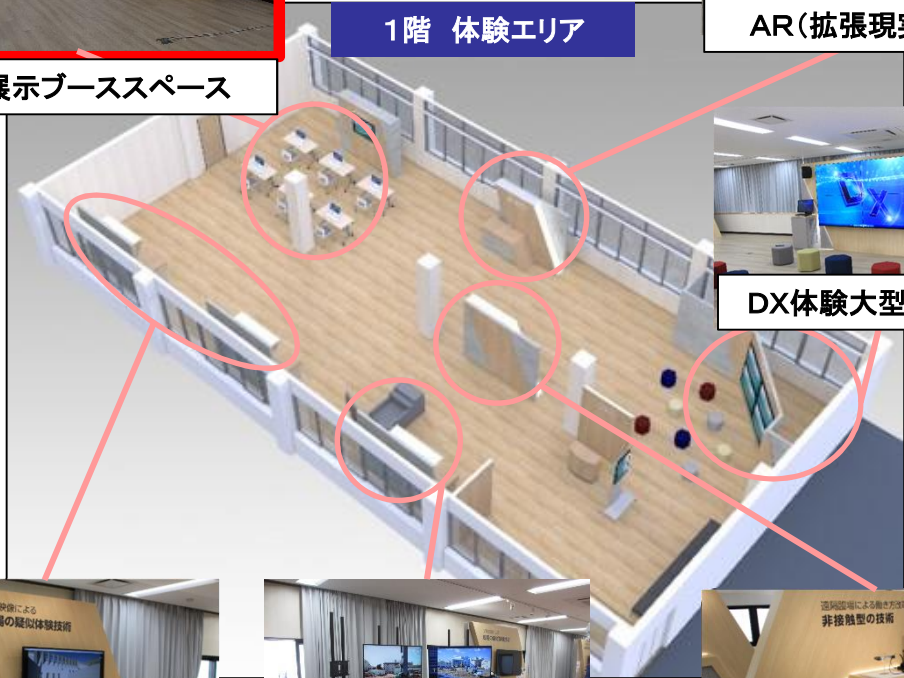


企業展示ブーススペース

1階 体験エリア



AR(拡張現実)体験



DX体験大型モニター



(株)建設環境研究所展示ブース
令和5年2月21日～3月17日まで



VR(仮想現実)体験



遠隔操作技術体験



遠隔臨場体験

令和3年度 中部DX大賞 奨励賞 受賞企業の取り組み展示②

◎株式会社建設環境研究所のDX技術を展示しました。
 ◎中部DX大賞 奨励賞受賞 【建設現場における次世代型「屋外電子野帳」開発の取組】
 ☆☆屋外調査のDX 電子野帳 Wild-K (建設環境研究所 独自開発)☆☆
 紙野帳、GPS(GNSS)、デジタルカメラ、紙地図を**1台に集約**し、作業を効率化します。入力データは音声で**自動復唱**され、入力ミスを防ぎます。



自社開発の電子野帳を用いた環境調査DX化
○大磯勇己 中村達博 阿部直己 小田健一 武山直史 益岡卓史 野村大祐 (株式会社 建設環境研究所)

はじめに
 当社は環境調査の現場効率と精度を向上させるため、電子野帳の開発を行っている。スマートフォンやタブレット端末に電子野帳の機能を設定し、調査現場にてデータ収集、その後の分析・考察まで一連のプロセスを試行した。開発した電子野帳の機能、現場運用で得られた知見、従来調査との比較を紹介し、環境アセスメント調査の将来像を検討する。

電子野帳と機能の紹介 (開発手法が異なる2種類の電子野帳)

自社開発Webアプリケーション「Wild-K」
 生物調査業務に特化した機能を持つ。GPS/GNSS衛星、キーボード入力/音声入力/手書き入力に対応。業務や人に依存しない統一規格による成果を作成できる。また、端末のカメラ機能等を利用して、現場とオフィスでリアルタイムに作業状況を共有できる。

Wild-K機能紹介 (当社カタログより抜粋)

スマホでWild-Kを使用中

既存技術 (商用アプリケーション、クラウドサービス) を組み合わせた社員自作の電子野帳アプリケーション。プログラミングは行わず、ノーコードで作成。調査員が操作に迷うことなくスムーズに調査できるよう、タブレット端末にアンケート用紙風のレイアウトを作り、電子ペンで書き込む方法を採用した。

タブレット端末に野帳機能を設定

電子ペン入力の様子

初回の調査員がスムーズに操作

電子野帳活用例 収集したデータをその場で集計、迅速に検討・考察を開始

展示時期: 令和5年2月21日~3月17日